

みどりでつなげる
守り育てる
東京の生物多様性



東京都 在来種植栽登録制度

江戸のみどり 登録緑地



表紙写真提供：首都高速道路株式会社 (①)、
株式会社フジクラ (②)、
森ビル株式会社 (③、⑤)、
三井住友海上火災保険株式会社 (④)

令和6年1月31日現在の情報を提供しています

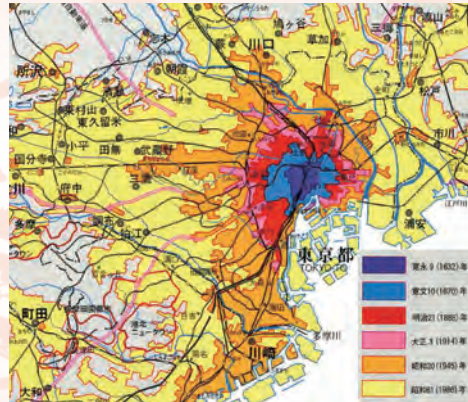
次世代へつないでいこう 東京の生物多様性

昔 東京が江戸と呼ばれていた頃、人は自然と寄り添い自然から豊かな恵みを受けながら暮らしていました。

急速に発展した東京失われる自然
身近にいた生きものたちもいつのまにか見られなくなりました。
—豊かな暮らしとはなにか。
立ち止まって考えるときがきています。

今 失われた自然を蘇らせるため、東京にもともと分布している植物を活用し地域のみどりをつなげ、生きものたちの営みを取り戻そうとしている民間緑地が次々と誕生しています。

そうして生まれた緑地を守り育て、東京の生物多様性を回復させる取組の輪が少しずつ広がってきているのです。



時代とともに拡大する東京の市街地

出典：「アトラス東京—地図でよむ江戸〜東京」株式会社平凡社地図出版、1986、p.2より一部加工して作成



▲敷地内のビオトープが豊かな森に成長/再生の杜 (清水建設株式会社技術研究所)

東京都は、

地域の生物多様性を守り育て、社会に貢献する民間緑地を応援します。

「江戸のみどり登録緑地」の仲間として、地域固有の生態系を次世代につなげていきませんか。



▲緑地での稲刈りイベントの取組/おおはし里の杜 (首都高速道路株式会社)

■ 在来種植栽登録制度「江戸のみどり登録緑地」の概要 ■

- 在来種を積極的に植栽し、生物多様性の保全に取り組んでいる緑地を東京都が登録・公表する制度です。
- 生きものの生息生育環境への配慮に特に優れた緑地は、「優良緑地」として別として登録します。



対象となる緑地

1,000 m²以上の敷地を有する民間建築物等の敷地内の緑地 (都自然保護条例第14条の緑化計画書の対象と同じ)

登録要件

- (1) 樹木が植栽されている区域の面積が 100 m²以上であるもの
 - (2) 在来種の樹木の面積割合：高木 40% 以上、中木及び低木 10% 以上
 - (3) 在来種の樹木の種数：高木 4 種以上、中木及び低木 3 種以上
- 登録要件(1)～(3)に加え、次の取組のうち2つ以上が行われていれば、「優良緑地」として登録します。

- 一 化学薬品を用いた除草剤、殺虫剤等の使用量の低減
- 二 昆虫類や鳥類等の餌場や隠れ場所等の確保
- 三 生きものの生息生育環境としての目的を有する草地や水辺の配置
- 四 前各号に掲げるもののほか、生きものの生息生育環境への配慮

※優良緑地の具体的な登録基準は、ホームページよりご確認ください。



江戸のみどり登録緑地の取組①

江戸のみどり連絡協議会の開催

登録企業同士が情報交換や課題共有等ができるプラットフォームとして、連絡協議会を年1回開催しています。連絡協議会では、以下のようなプログラムを提供しています。

◆プログラム例

- ・生物多様性に関する国内外の最新動向に関する講義
- ・生物多様性に配慮した緑地管理手法に関する講義
- ・緑地見学
- ・緑地管理に関する情報交換
- ・その他意見交換 等



▲連絡協議会の様子

技術支援の実施

登録企業は、江戸のみどり登録緑地の維持管理における課題解決のため、以下のような技術支援を受けることができます。

◆専門的・技術的な助言や提案

- ・緑地の維持管理手法について
- ・絶滅危惧種の保全手法について
- ・鳥や虫などを誘致する植栽種選定について
- ・外来種の防除、侵入防止について
- ・緑地機能の可視化手法について 等



▲調査員による生育状況の確認の様子

◆自然共生サイト認定申請の支援

- ・申請書類の準備等



▲専門家による害獣被害の確認の様子

江戸のみどり登録緑地の取組②

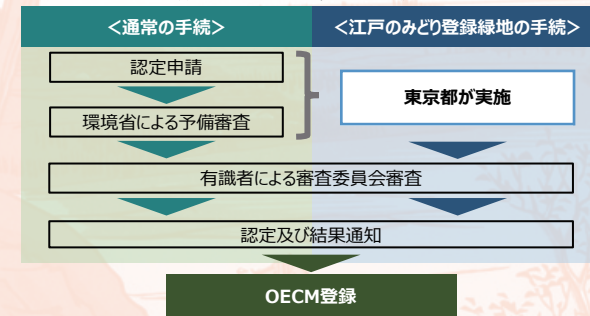
環境省「自然共生サイト」認定制度との連携

令和5年9月、東京都と環境省は、生物多様性に配慮した緑化を行う民間事業者の取組を後押しするため、当制度と、国の「自然共生サイト」認定制度が相互に協力・連携するための協定を締結しました。都は、今後、国と連携して、世界目標である30by30への貢献を目指していきます。

「江戸のみどり登録緑地」が「自然共生サイト」への認定を希望する場合、都が認定申請の受付及び予備審査の手続を実施します。また、御希望があれば、自然共生サイトの認定に向け、書類の準備など支援を受けることができます。

「自然共生サイト」認定制度は、民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域を国が認定する制度で、令和5年度から開始されました。「自然共生サイト」認定区域のうち、保護地域との重複を除いた区域については、OECM (Other Effective area-based Conservation Measures: 保護地域以外で生物多様性保全に資する区域) として国際データベースに登録されます。

～自然共生サイト認定の流れ～



30by30 (サーティ・バイ・サーティ) とは、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標で、「昆明・モントリオール生物多様性枠組」において設定されたターゲットの一つです。環境省では、保護地域の拡張と管理の質の向上に加え、保護地域以外で生物多様性保全に資する地域(OECM)の設定・管理を、30by30目標を達成するための中心施策に据えています。

都内では、自然公園、保全地域、特別緑地保全地区だけでも陸域の約37%程度が保護地域として既に指定されています。今後、こうした区域を適切に保全・管理していくとともに、保護地域以外で生物多様性保全に資する地域については、国の「自然共生サイト」認定制度への登録を促すなど、30by30目標に貢献していきます。

江戸のみどり登録緑地 MAP

一般

アクロスプラザ東久留米
(A街区)

優良

三井住友海上駿河台ビル
および駿河台新館

優良

九段会館テラス

一般

番町パークハウス

一般

TOKYO TORCH Park

優良

飯野ビルディング

優良

ビオガーデン
「フジクラ木場千年の森」

優良

ミサワパーク東京

優良

渋谷ソラスタ

優良

日比谷パークフロント

優良

おおはし里の杜
(大橋換気所)

優良

アークヒルズ
仙石山森タワー

優良

再生の杜
(清水建設技術研究所)

優良

東京ポートシティ竹芝



▲屋上庭園全景

三井住友海上駿河台ビルおよび駿河台新館

【本館 1984 年完成、新館 2012 年完成 / 2017 年登録】

「いきもの」と「まち」の共生」をコンセプトに、在来種を中心に野鳥の好む実がなる樹種、チョウや蜂が訪れる蜜源となる植物を選定し、化学肥料や農薬を使わない、生物多様性に配慮した緑地づくりをしています。ビルにはヒメアマツバメが一年中営巣しているほか、誘致目標種であるヤマガラやシメ等の野鳥も飛来が確認されています。2023 年には環境省の自然共生サイトに認定されました。新館横にある ECOM 駿河台（エコムスルガダイ）では、自然環境や生きものに関連した展示やイベントを開催し、地域住民や小学生、来訪者、社員などに自然を身近に感じる機会を提供しています。



▶ 緑地内のバードバスを利用するモズ

◀ 環境や自然に関する情報を発信する ECOM 駿河台



DATA

所在地：千代田区神田駿河台 3-9、3-11-1
 登録者：三井住友海上火災保険株式会社
 ◆緑地面積 5,412 m²
 (うち樹木面積 5,412 m²)

- 面積割合 高木 55% 中木及び低木 48%
- 在来種の種数 高木 31 種 中木及び低木 54 種
- おもな樹種 ヤマモモ、タブノキ、エゴノキ、ムクノキ、エノキ、ニシギギ、ヤマブキほか



緑地や施設の詳細はこちら
 (外部サイト)



▲多様な生きものを育む池 / ビオガーデン入口

ビオガーデン「フジクラ木場千年の森」

【2010 年完成 / 2017 年登録】

“江戸深川の原風景”を再現することを目指してつくられたビオガーデンは、野生生物を優先に考えたビオトープ部分と、人も楽しんでくつろげるガーデン部分で構成されています。2つの池と小川を中心とした緑地には、タブノキ、スダジイ、エゴノキ、コナラ、クヌギなど 70 種類に及ぶ在来樹木や草本が植栽され、豊かな森が再現されています。池や小川にはオイカワ、モツゴ、メダカ、森にはトンボやチョウなどの様々な昆虫が生息し、カワセミやヒヨドリ、カルガモなどが飛来、営巣する多様な生きものすみかとなっています。近隣小学校や住民を対象とした生きもの観察会を開催するなど、地域の人と自然を“つなぐ”空間となっています。



▶ 地域の子もたちとの芋ほりイベントの様子

◀ 緑地内の土手に営巣しているカワセミ



DATA

所在地：江東区木場 1-2-15
 登録者：株式会社フジクラ
 ◆緑地面積 2,123 m²
 (うち樹木面積 1,770 m²)

- 面積割合 高木 86% 中木及び低木 88%
- 在来種の種数 高木 28 種 中木及び低木 42 種
- おもな樹種 スダジイ、シラカシ、コナラ、カヤ、アカマツ、イロハモミジ、タブ、ガマズミ、ミツバツツジ、ウツギ、エゴノキ、クヌギほか



緑地や施設の詳細はこちら
 (外部サイト)



▲こげらの庭

アークヒルズ 仙石山森タワー

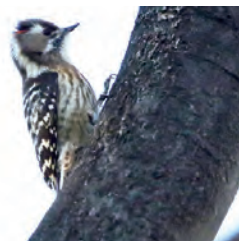
【2012年完成 / 2017年登録】

港区高低差のある地形や表土を活かしつつ、スダジイやアラカシ、ヤブツバキ、エゴノキなどの多様な在来種の植物を階層的に植栽しました。「こげらの庭」と呼ばれるエリアには、生きものに配慮した合計 340 m²の水辺や草地在り広がっています。敷地全体が生きもののすみかや餌場となるよう、枯れ木や空石積みによる土留め、落ち葉だめ等を設置しており、市街地では現れにくい鳥とされているコゲラなど、多くの生きものが確認されています。豊かな生態系が育まれている緑地は、地域の子もたちと保護者を対象とした「ヒルズ街育プロジェクト」などの場として、都心で植物・昆虫・鳥と触れ合える貴重な機会を提供しています。



◀地域の子もたちとの生きもの観察会の様子

池のほとりに設置した
枯木に飛来したコゲラ



DATA

所在地：港区六本木 1-9-10
登録者：森ビル株式会社ほか
◆緑地面積 3,944 m²
(うち樹木面積 3,604 m²)

- 面積割合 高木 91% 中木及び低木 70%
- 在来種の種数 高木 13 種 中木及び低木 23 種
- おもな樹種 スダジイ、アラカシ、タブノキ、ヤマザクラ、コナラ、ヤブツバキ、エゴノキ、ガマズミ、ヤマボウシ、マユミほか



緑地や施設の
詳細はこちら
(外部サイト)



▲北側エントランス

日比谷パークフロント

【2017年完成 / 2017年登録】

豊かな緑に包まれた「公園の中のオフィス」をコンセプトとして、オフィス環境のいたるところに緑と触れ合える機会を設けています。1 階のガーデンプロムナードには、100 種を超える樹木・草花を植えており、施設利用者や来訪者は多様な植栽を楽しみ、公園を散策しているような気分を味わえます。日比谷公園など周辺の緑地と一体となって緑豊かな環境を創造することで、緑の連続性を拡充し、地域の生物多様性向上へ寄与することを目指しました。地域に生息する生きものに配慮した取組を継続し、竣工時から誘致目標種としてきたヒヨドリやアオスジアゲハも確認されています。



◀21F 屋上菜園で実施する野菜教室の様子

ビル（中央）の前には
日比谷公園が広がる



DATA

所在地：千代田区内幸町 2-1-6
登録者：三菱 UFJ 信託銀行株式会社
◆緑地面積 1,869 m²
(うち樹木面積 1,869 m²)

- 面積割合 高木 40% 中木及び低木 17%
- 在来種の種数 高木 14 種 中木及び低木 11 種
- おもな樹種 シラカシ、タブノキ、イロハモミジ、ヤマザクラ、ヤマモモ、マユミ、リョウブ、ムラサキシキブほか



緑地や施設の
詳細はこちら
(外部サイト)



▲イノの森から日比谷公園側を望む

飯野ビルディング

【2014年完成 / 2018年登録】

100年先も愛されることをコンセプトとした環境配慮ビルで、その屋外空間である緑地「イノの森」では、敷地を取りまく環境に適した在来種主体による森づくりに取り組んでいます。植栽は、潜在自然植生を参考にするとともに、皇居東御苑の雑木林、愛宕山神社の社叢林・斜面林など、近隣の植生調査結果を反映して計画しました。また、周辺地域の生きもの調査を基に、誘致目標種を設定し、食草・食餌木となる在来種を数多く植栽しています。緑地の維持管理では、落ち葉を処分せずに残す、剪定枝の一部を緑地内に堆積して昆虫等のすみかをつくるなどの配慮を行っています。敷地内では、ニホンミツバチの養蜂も行なわれています。



環境配慮ビルのエントランスに位置するイノの森

◀イノの森の巣箱から巣立ったシジュウカラ



DATA
所在地：千代田区内幸町 2-1-1
登録者：飯野海運株式会社
◆緑地面積 1,594 m²
(うち樹木面積 1,594 m²)

- 面積割合 高木 73% 中木及び低木 45%
- 在来種の種数 高木 24 種 中木及び低木 13 種
- おもな樹種 アカガシ、シラカン、タブノキ、ヤマモモ、ヤブニッケイ、イロハモミジ、ヤマザクラ、アセビ、マンリョウ、ヤブコウジ、ヤマツツジ、ウツギほか



緑地や施設の
詳細はこちら
(外部サイト)

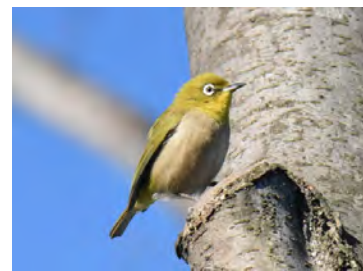


▲住宅展示棟「グリーン・インフラストラクチャー・モデル」

ミサワパーク東京

【2010年完成 / 2018年登録】

住宅展示場「ミサワパーク東京」では、地域の植生との連続性や生物多様性に配慮したエクステリアの設計を行いました。敷地内外で実施した環境調査の結果をもとに、敷地内に従来からあるケヤキの大木を残しながら、在来種を中心に鳥類の食餌木となる樹種を数多く植栽しています。さらに、雨水を利用した水辺の整備や鳥の巣箱を設置するなど、敷地全体でエコアップに取り組んでいます。毎年実施している生きもの調査では、敷地内の生きものの種数の大幅な増加が確認されるなど、「高井戸の貴重な資源」として地域の生態系に貢献する効果が現れています。



駐車場の芝地でアキアカネを確認 ▶

◀枝上で餌を探すメジロ



DATA
所在地：杉並区高井戸東 2-4-5
登録者：ミサワホーム株式会社
◆緑地面積 1,159 m²
(うち樹木面積 1,155 m²)

- 面積割合 高木 75% 中木及び低木 15%
- 在来種の種数 高木 17 種 中木及び低木 6 種
- おもな樹種 シラカン、ケヤキ、サワラ、モチノキ、スダジイ、アラカン、イヌツゲ、マサキ、クロモジ、ムラサキシキブ ほか



緑地や施設の
詳細はこちら
(外部サイト)



▲ヒルトップガーデンウエスト

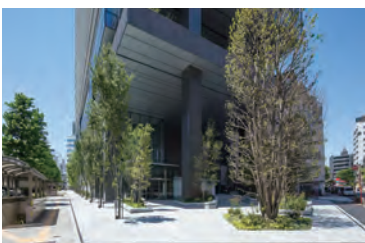
渋谷ソラスト

【2019年完成 / 2019年登録】

人や生きものが集まる“みんなの居場所”をコンセプトに、誰もが心地よい環境の創出を目指しています。アプローチから屋上に至るまでのみどりの連続性を立体的に確保し、鳥や蝶が上層階まで飛来できる緑化配置としています。また、周辺の生きもの調査の結果を基に、飛来・生息が期待できる鳥やチョウなどの誘致目標種を設定しました。誘致目標種が好む花や実のなる植物を植栽することで、生きものネットワークの形成を目指しています。維持管理についても、化学薬品を極力使用しない病害虫防除、施肥を行い、オフィスワーカーや来訪者、生きものに影響を与えないよう配慮を行っています。



メインエントランス▶



◀四季を感じられるスカイテラス (21F)

DATA

所在地：東京都渋谷区道玄坂 1-21-1
 登録者：一般社団法人道玄坂121
 ◆緑地面積 928 m²
 (うち樹木面積 928 m²)

- 面積割合 高木 47% 中木及び低木 19%
- 在来種の種数 高木 9種 中木及び低木 8種
- おもな樹種 シラカシ、アラカシ、ウラジロガシ、カツラ、コハウチワカエデ、ヤマザクラ、ユキヤナギ、ヤマブキ、ガマズミ、マユミ、ムラサキシキブ、アセビほか



緑地や施設の
 詳細はこちら
 (外部サイト)



▲大橋換気所屋上の自然再生緑地

おおはし里の杜 (大橋換気所)

【2013年完成 / 2019年登録】

首都高速道路大橋換気所の屋上に創られた自然再生緑地です。目黒川周辺の原風景をモデルに在来種を植栽するなど、多様な生きものの生育空間となる環境を創出することを目的に整備しました。換気所屋上の特殊な形状を昭和初期のかつての目黒川の河岸段丘に見立て、斜面林、草地、湧水とせせらぎ、池、水田を設置しています。在来種の野草育成のため外来種を除去する、農薬を使わないなどの生態系を守る取組の結果、約300種類の動植物（鳥類、昆虫類等）が確認されました。稲作体験や一般開放イベント等を通じて、近隣小学校等の環境教育の場や地域共生活動の場としても活用しています。



近隣小学校との稲作イベントの様子
 ◀現地にてオオタカを確認 (2021年12月)



DATA

所在地：東京都目黒区大橋 1-9-1
 登録者：首都高速道路株式会社
 ◆緑地面積 908 m² (うち樹木面積 649 m²) ※緑地の開放は公開時のみ。

- 面積割合 高木 96% 中木及び低木 97%
- 在来種の種数 高木 13種 中木及び低木 17種
- おもな樹種 アカシデ、アラカシ、イヌシデ、クヌギ、ウワミズザクラ、イヌツゲ、ウグイスカグラ、ウメドキ、ガマズミ、カマツカほか



緑地や施設の
 詳細はこちら
 (外部サイト)

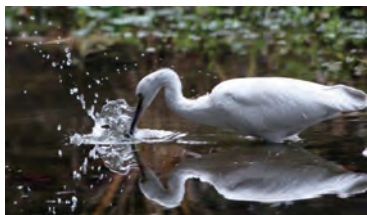


▲研究所内のビオトープ

再生の杜（清水建設技術研究所）

【2006年完成 / 2020年登録】

清水建設株式会社技術研究所の敷地では、都市における生態系回復を目指した緑地づくりの実証が長年取り組まれています。その中核的なフィールドが再生の杜ビオトープです。2006年の整備以降、常緑樹林、落葉樹林、草地、湿地、水域のエコトーン（環境移行帯）が形成され、10年以上に渡り多様な生きものの生息生育空間が育まれています。中心には約 650 m²の水辺空間があり、東京都の絶滅危惧種である水生植物トチカガミなどが生育するとともに、カモ類やサギ類などの水鳥やトンボ類も多種確認され、周辺エリアでの生態系ネットワーク形成に貢献しています。また技術研究所で実施している公開講座「シミズ・オープン・アカデミー」を通じて年間 3000 人以上が訪れ、環境教育の場として活用されています。



◀ コサギの採餌

▶ 青少年を対象とした環境教育



DATA

所在地：東京都江東区越中島三丁目 4-17

登録者：清水建設株式会社

◆ 緑地面積 2,567 m²（うち樹木面積 1,865 m²）

再生の杜ビオトープ面積 1,940 m²

● 面積割合 高木 78% 中木及び低木 53%

● 在来種の種数 高木 61 種 中木及び低木 24 種

● おもな樹種 クスギ、コナラ、アキグリ、

ウツギ、アセビ、イボタノキ



緑地や施設の
詳細はこちら
（外部サイト）



▲屋外スキップテラス

東京ポートシティ竹芝 オフィスタワー

【2020年完成 / 2020年登録】

40 階建ての大型複合施設の低層部（2 階から 6 階）にスキップテラスを設け、周辺環境と調和した生物多様性に配慮した緑を創出しています。スキップテラスを中心に、「雨・水・島・水田・香・菜園・蜂・空」の 8 つがテーマの「竹芝新八景」があり、レインガーデンや水田、ミツバチの巣箱の設置など、都市における生物多様性の保全に取り組んでいます。また竹芝新八景を活用した環境教育や農体験活動を推進する組織として、竹芝 UBC 事務局を設けました。UBC は 3 階を拠点に、インフォメーションコーナー & デスクや、竹芝新八景を紹介するツアーなども実施しており、働く人や訪れる人に対して、生物多様性への認知と理解の向上を図っていきます。



◀ スキップテラス上に設置された水田

▶ 東京湾、浜離宮恩賜庭園、旧芝離宮恩賜庭園が隣接



DATA

所在地：東京都港区海岸一丁目 7-1

登録者：東急不動産株式会社

◆ 緑地面積 4,006 m²

（うち樹木面積 3,869 m²）

● 面積割合 高木 40% 中木及び低木 22%

● 在来種の種数 高木 14 種 中木及び低木 11 種

● おもな樹種 アラカシ、タブノキ、シラカシ、

ケヤキ、イロハモミジ、ムラサキシキブ、

ガクアジサイほか



緑地や施設の
詳細はこちら
（外部サイト）



▲お濠など周囲の緑地とつながる植栽計画

九段会館テラス

【2022年完成 / 2023年登録】

北の丸公園や皇居などに近接する立地特性を活かし、周辺の緑地空間と一体となった緑豊かな環境の創造による緑の連続性の拡充を目指しました。敷地に現存するクスノキの巨木やお濠沿いのソメイヨシノの古木は残しながら、周辺の植生・生き物調査結果をもとに在来種や鳥類・チョウ類の食餌木と食草を取り入れ、生物多様性向上へ寄与する植栽計画としました。また維持管理においても、化学薬品を極力使用しない病虫害防除や施肥を行うなど、生き物に極力影響を与えない取組を行っています。



屋上庭園 ▶



◀ 在来種を取り入れた緑地

DATA

所在地：東京都千代田区九段南 1-6-5

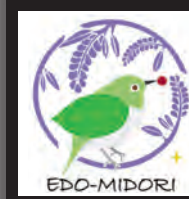
登録者：合同会社ノーヴェグランデ

◆緑地面積 1,840 m² (うち樹木面積 1,840 m²)

- 面積割合 高木 46% 中木及び低木 36%
- 在来種の種数 高木 12種 中木及び低木 18種
- おもな樹種 シラカシ、タブノキ、ヤブニッケイ、イロハモミジ ほか



緑地や施設の
詳細はこちら
(外部サイト)



番町パークハウス

【2007年完成 / 2019年登録】

番町パークハウスは、豊かに生き茂った樹木が残された個人邸宅地跡に建つマンションです。高さ 15m を超える在来種の樹木を最大限に生かし、敷地の約 40% を使って庭園を創り上げています。過去の記憶を受け継いだ木々が空間を包み込み、自然の肌触りや温もりを感じられる庭となっています。



DATA

所在地：東京都千代田区四番町 8-6

登録者：番町パークハウス管理組合

◆緑地面積 965 m²

(うち樹木面積 965 m²)

- 面積割合 高木 83% 中木及び低木 27%
 - 在来種の種数 高木 16種 中木及び低木 10種
 - おもな樹種 ケヤキ、イヌエンジュ、シラカシ、スダジイ、ムクノキ、クリ、アセビ、ガマズミほか
- ※一般マンションのため通常立ち入りはできません。

アクロスプラザ東久留米 (A 街区)

【2019年完成 / 2020年登録】

アクロスプラザ東久留米 (A 街区) は、旧東久留米団地の一角にある商業施設です。武蔵野の面影を残す周囲のみどりと一体になるように、雑木林を代表する樹種であるケヤキ、コナラ、クヌギ等を植栽しています。シラカシの木陰の下で、人々が憩える空間もついています。



DATA

所在地：東京都東久留米市上の原1-333-29

登録者：大和ハウスリアルティマネジメント株式会社

◆緑地面積 336 m² (うち樹木面積 336 m²)

- 面積割合 高木 92.2% 中木及び低木 22.1%
- 在来種の種数 高木 9種 中木及び低木 5種
- おもな樹種 ケヤキ、ヤマモモ、シラカシ、クヌギ、コナラほか



TOKYO TORCH Park

【2021年完成 / 2022年登録】

TOKYO TORCH Park は東京の玄関口から「日本を明るく、元気にする」をコンセプトとした、東京駅前日本橋口前に広がる大規模広場です。テラス前の広場空間では、遊具の設置、マルシェ、季節を感じるイベント等を通じて、賑わいある緑化空間に佇める広場を目指しています。



DATA

所在地：東京都千代田区大手町二丁目、中央区八重洲一丁目

目、中央区八重洲一丁目

登録者：三菱地所株式会社

◆緑地面積 1,470 m²
(うち樹木面積 1,470 m²)

- 面積割合 高木 75% 中木及び低木 27%
- 在来種の種数 高木 4種 中木及び低木 11種
- おもな樹種 ケヤキ、イロハモミジ、ソヨゴ、ヒメユズリハ、ヤマツツジ、ガクアジサイ、ニシキギ、マンリョウ ほか



緑地や施設の
詳細はこちら
(外部サイト)

『東京都生物多様性地域戦略』における「江戸のみどり登録緑地」の位置付け

都は、令和5年4月に『東京都生物多様性地域戦略』を改定しました。本戦略は、生物多様性の世界目標である「昆明・モンリオール生物多様性枠組」及び「生物多様性国家戦略 2023-2030」を踏まえ、改定したものです。

3つの基本戦略に基づき、行政、都民、事業者、民間団体(NPO・NGO・市民団体等)、教育・研究機関など様々な主体が連携・協働しながら、取組を進めていくことにより、2030年までに、生物多様性を回復軌道に乗せる「ネイチャーポジティブ」の実現を目指します。

江戸のみどり登録緑地制度は、基本戦略「生物多様性の保全と回復を進め、東京の豊かな自然を後世につなぐ」及び「生物多様性の恵みを持続的に利用し、自然の機能を都民生活の向上にいかす」ための取組として生物多様性地域戦略に位置づけられています。



東京都生物多様性地域戦略の詳細はこちら



令和5(2023)年4月

江戸のみどり登録緑地に関する Q&A



Q1. 在来種とは何ですか？

⇒A. 在来種とは、地域にもともと分布している生物種のことです。本制度では、「植栽時における在来種選定ガイドライン」(平成26年5月 東京都環境局)に基づいて選定される植物を在来種と呼んでいます。

Q2. 園芸品種などを使用すると登録できないのでしょうか？

⇒A. 事業のコンセプトに合わせて園芸品種なども使用できますが、地域の自然環境に配慮した植栽を心がけ、在来種の樹木の面積割合と種数の登録要件を満たしてください。

Q3. 費用はかかりますか？

⇒A. 登録に関する費用はかかりません。

Q4. 登録後に必要な手続きはありますか？登録の更新は必要ですか？

⇒A. 毎年1回、「管理状況報告書」を都にご提出いただきます。緑地の形状に大幅な変更がないか、登録要件を継続して満たしているかを確認します。本制度では登録期間を設けていないため、登録の更新手続きは必要ありません。

Q5. 計画段階の緑地も登録できますか？

⇒A. 本制度では、完成後の緑地を登録します。ただし、行政担当部署への緑化計画届出又は開発許可申請を行った緑地については、計画段階での登録申込が可能です。この場合、「予定登録」を行い、緑地完成後に現地確認を実施します。現地確認後、正式に登録し、登録証を交付し、シンボルマークを送付します。

Q6. 生物多様性に配慮した緑地の維持管理は、通常の管理に比べると手がかかるイメージがあります。維持管理のノウハウを知る機会や、東京都からのサポートはありますか？

⇒A. 都では、登録企業等が維持管理のヒントを学ぶことができる連絡協議会を開催しています。また、状況に応じて、周辺自治体との連携支援や動植物の専門家のご紹介など、ご要望に応じてサポートを行うこともできますのでご相談ください。技術支援についてはP.3をご参照ください。

※その他の制度に関する詳細は、
東京都環境局ホームページを
ご確認ください。

制度の詳細は
こちら



植栽時における在来種
選定ガイドラインの詳細
はこちら



江戸のみどり登録緑地の4つのメリット

登録の流れ

① 事前相談

登録をご検討の方は、申込前にご相談ください。詳細についてご説明します。

② 登録申込み

東京都ホームページからダウンロードした申込書を記入の上、必要資料を添えて、担当窓口までご提出ください。

③ 書類審査・現地確認

書類審査と要件を満たしているか確認を行います。

④ 登録

要件を満たしていれば登録を行い、登録証を交付し、シンボルマークを送付します。



活用例

広報資料や自社ホームページでの取組紹介

顧客や投資家との対話におけるツールとして

社内外に緑地の価値を共有するきっかけに

シンボルマークを敷地内の見やすい場所へ掲示

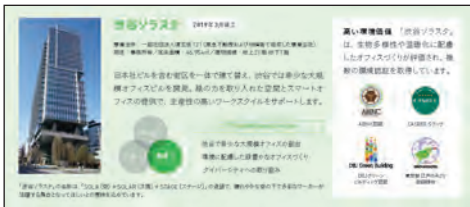
緑地で開催するイベントでの話題作り

生きものに配慮した維持管理の成果を振り返り

メリット1

生物多様性やSDGsに貢献する取組を効果的にPRできます

緑地での取組を、企業価値向上につなげることができます。



▲統合報告書へ掲載 (A)



▲自社ホームページへ掲載 (B)



東京都公式ホームページやSNSでも緑地をPRします！

メリット2

経営者や社員の環境意識向上につながります

緑地の価値を社内や利用者に理解してもらうきっかけとなり、継続的な緑地運営の実現につながります。



必要とされ満足してもらえる緑地へ

▲経営層の現地視察 (C)



▲テナント従業員へ緑地の恵みを無料配布 (D)
左：ウンシュウミカン、右：緑地内で育った苗木



メリット3

地域に愛される緑づくりを後押しします

生きものと触れ合える緑地は周辺住民にとっても大切な憩いの場です。生きものへの配慮が、地域に愛される緑づくりを後押しします。



▲子どもたちに緑地を紹介の様子 (E)

メリット4

東京都が目指す、都市のエコロジカル・ネットワークの形成に貢献できます

公園などの“みどりの拠点”をつなげる役割を果たすことで、東京都の環境施策と連携し、都市のエコロジカルネットワークを形成します。



▲野鳥のエコロジカル・ネットワーク

▲エコロジカル・ネットワーク形成の例 (F)

資料提供：(A) 東急不動産ホールディングス株式会社、(B) 清水建設株式会社、(C) 株式会社フジクラ、(D) 飯野海運株式会社、(E) 森ビル株式会社、(F) 三井住友海上火災保険株式会社